

在宅生活を支援する福祉機器



川崎市社会福祉事業団

川崎市れいんぼう川崎

在宅支援室

理学療法士 小磯さおり

れいんぼう川崎

➤ 多機能型障害者支援施設

● 地域リハビリテーションの理念に基づいた支援

● 実施している事業

- 生活介護・施設入所支援事業 ⇒ 長期入所
- 短期入所（ショートステイ）
- 自立訓練事業 ⇒ 通所
- 総合相談窓口
- 在宅リハビリテーション事業（川崎市単独事業）
- 補装具外来



地域で生活されている
方々を支援

在宅リハビリテーション事業：川崎市の単独事業



委託

れいんぼう川崎

川崎市北部リハセンター

川崎市中部リハセンター

医師・保健師・理学療法士・作業療法士
心理士・ソーシャルワーカー・建築士など
色々な職種が集まったチーム

生活の場へ訪問
暮らし方を確認



ニーズと確認の結果に基づき目標を設定／その方らしい暮らしのための支援をみんなで

暮らし方の支援をすること

- ご本人、ご家族の希望
- 元々どのような暮らし方をしていた方か



- 見通しを持ち、目標を立てそれを達成していく

自宅での生活空間を安全に移動して
安楽に活動を行うこと

社会活動にも広がる生活を実現すること

実現する手段の一つとして、
住宅改修や支援機器の導入を考える。
導入した機器を使いこなすための支援も必要。

事例

Aさん 40歳 女性 交通事故による頸髄損傷 仕事:事務職

【ご本人の状況】

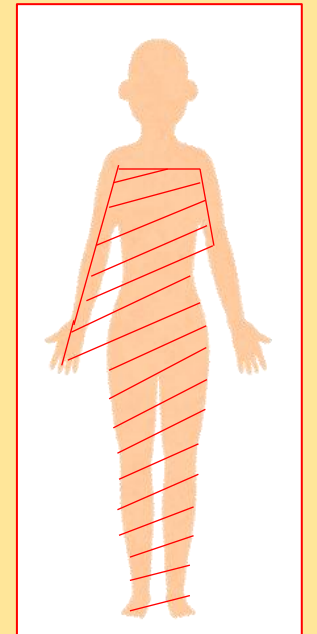
- ・手足・身体の麻痺
- ・支えなく座ることは不安定
- ・立つこと・歩くことは難しい
- ・屋内の移動は車椅子を手でこぐ
- ・屋外の移動は電動車椅子を使う
- ・一人でシャワー浴をできない
- ・一人で玄関の出入りをできない

・トレーニングにより
座った時のバランスは良くなりそう

・座る能力が良くなることで
お一人で出来ることが増えそう

「自分のマンションで一人暮らしをしたい」

「車を運転し仕事に戻りたい」



事例

Bさん 50代 女性 疾病による下肢麻痺 仕事:主婦

【ご本人の状況】

- ・足の麻痺がある
- ・手の力はある
- ・立つこと・歩くことは難しい
- ・普段は床の上で過ごしている
- ・床上を座ったまま移動することが出来る
- ・キッチンでは事務椅子に座って作業をしている
- ・屋外の移動は車椅子を使う

・現状の機能を維持するためには
床から椅子に移る際の手の負担
を軽減したほうが良い

日常生活は自立され、主婦としての役割を担っている

「調理をする際、床から事務椅子に座るのが大変。」

支援機器を導入考える際心がけること

【ご本人の状況】

- ・運動機能 / 認知面の状況
- ・どのような環境なら活動を行いやすくなるか
- ・思いや希望していること、イメージ

【介助者の状況】

- ・介助の必要性の有無
- ・誰が介助するのか
- ・身体的、精神的な状況 / 思い

【物理的な環境】

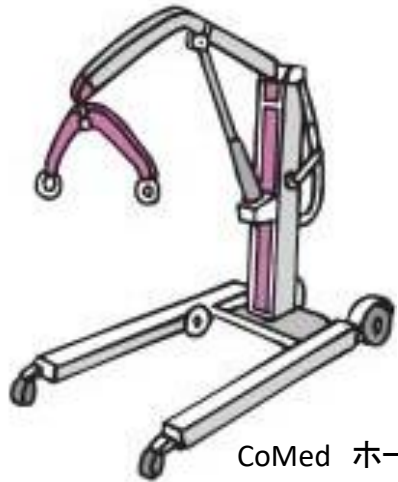
- ・安全に活動する際に障壁になっているのは何か。
- ・機器を使用出来るスペースはあるか
- ・収納しておく場所はあるか

【その他】

- ・実際に試すことが出来るか
- ・その他の家族の生活の支障にならないか
- ・機器を導入する際に利用できる福祉的制度はあるか
- ・購入の際の負担額

導入時の確認が足りていないと・・・

手間がかかるので使わない



CoMed ホームページより

使用環境に合わず使えない



病気の進行に間に合わず、導入時には使えなくなっていた

「用具を入れたことで掃除が大変」
「用具の掃除自体も大変」



その他 当施設での取り組み

～福祉用具の評価を実施～

▶かわさき基準認証制度

川崎市では、高齢者・障害者を含め、あらゆる利用者の日常生活の活性化を促す製品・設備・建物・サービス類を対象に、川崎市独自の基準を満たすものを市が認証するものです。認証するにあたり、医療、福祉の従事者や、当事者とそのご家族からの評価の結果を参考にします。(参照:川崎市ホームページ)



当事者の方、ご家族の方のご協力を頂き、福祉用具の評価会を実施しています。

* 写真は昨年度のものです。

